



地域の“いま”を丁寧に数字で捉えることが未来へのカギ！

伊豆長岡温泉ミライ会議では、2020年10月4日に「まちづくり部会」、10月8日に「観光部会」と「コミュニティ部会」を開催しました。メンバーはエリアプラットフォームの各団体と、部会長として日本大学の矢嶋准教授、横浜国立大学の野原准教授、法政大学の今井兼任講師をお迎えしました。

まず地域の“いま”を丁寧に数値で抑えるために、地域の人口・観光地の集客推移・空き家状況等を分析しました。

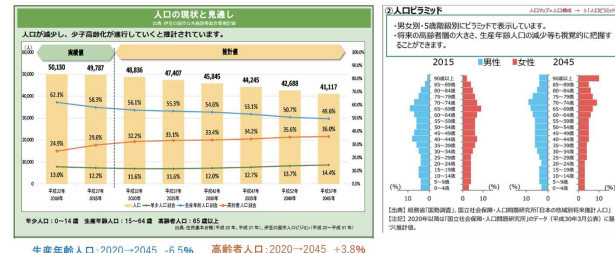
伊豆長岡温泉は、全国でも珍しく温泉場の大半のエリアが都市機能誘導区域に指定され、都市計画的重要なエリアとして位置付けられています。ミライ会議では、国・県・市の施策と連携を図りながら、今後の伊豆長岡温泉のまちづくりを見据え、多角的な検討を行いながら、未来ビジョンを作っていきます。

大事なのはビジョンを共有し、各活動が同じ目標に向かうこと。同じ方向に向かっていけば、例え障壁があっても、それぞれの活動が助け合い、相乗効果が期待出来ます。

また、議論では様々な全国の取り組みも扱いました。千葉市柏市の柏ストリートパーティでは、準備から撤収まで住民参加型で一日限定ではありますが、通りを交通の場から交流の場に変化させています。

出雲市神門通りのシェアスペースの事例では、歩道と車道の再配分を行うことで、歩行空間が豊かになり、通りとしての価値を上げることを実現しています。このような全国の事例を参考に、温泉場出逢い通りへの期待の声も多く上がりました。

今後は、オリンピック・パラリンピックの開催、大河ドラマの舞台としても注目のエリアなので、周遊先のコンテンツの充実も今後の検討課題として上がりました。



千葉市柏ストリートパーティの事例
通りは、交通の場から『交流の場』へ



道路空間の再配分とシェアスペースの手法：出雲市 神門通りの“歩車共生”の事例

温泉場お散歩市で、まちづくり社会実験を開始！

これから部会ごとにテーマを持って、社会実験を行っていきます。内容は、①道路空間活用②遊休不動産活用③E-Bikeによる周遊の3つの社会実験を想定しています。

まずは10月11日のお散歩市で第一弾を実践しました！まちづくり・コミュニティ部会参画メンバーの連携・協力により、温泉駅をE-Bikeステーションとして活用してもらい、日本大学国際関係学部の学生さん17名が、E-Bikeを使って伊豆の国市の特色ある景観を楽しむ周遊ルートを経験してくれました。また温泉場出逢い通りの空き店舗2件を「街角ギャラリー」と「旅する古本」として活用することで、新たな賑わいづくりに挑戦しました。

社会実験で大切なのは予測を立てて検証すること、失敗を恐れずに実践し、伊豆長岡温泉の将来にどう繋いでいくか？に焦点を当てることです。今後もお散歩市を起点に、多世代を巻き込みながら社会実験を進めていきますので、ご協力のほど、よろしくお願い致します。取り組みは随時、下記伊豆長岡温泉ミライ会議HPより発信していきます！

今回の3部会では、今後の伊豆長岡温泉の未来象についてそれぞれ具体的に議論していきます。



お散歩市に合わせた社会実験の実施



日本大学 国際関係学部の学生 17名によるE-BIKE周遊体験を実施。次回は、周遊の動画撮影を行い、E-BIKE周遊の動画コンテンツづくりを実施予定しています。

社会実験のイメージ



道路空間活用

出逢い通りを一時的に一方通行化または片側通行化し、歩行者の安全に配慮した歩いて楽しいまちを実現。



遊休不動産活用

お散歩市出店者や市内の事業者によるお試しショップの設置、DIY等による環境整備の取組。



E-BIKEによる周遊

歴史的史跡や眺望点、市内の飲食店などをめぐる周遊プログラムの作成。

